

酷暑の砌 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

先月は十三日に仲二十四連隊長の送別ゴルフコンペが小林生駒高原CCCで、そして当夜送別会が 道の駅・えびの」にて開催されました。

ゴルフコンペには西諸地区内外から約七十名が参加され、仲連隊長の地域でのお付き合いの広さや、そのお人柄に改めて感心させられたところ です。

また藤原四十三連隊長も七月末にご栄転で、後任には陸上幕僚監部より、井土川一友一等陸佐が、八月一日にご着任される旨のご案内を頂きました。

過ぐる二十一日、NHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台、会津若松に足を延ばし、白虎隊自刃の地「飯盛山」の墓前にて合掌焼香して参りましたが、

その後に鶴ヶ城の本丸御殿跡から壮麗な天守閣を仰ぎ見て、最新装備の強大な官軍に立ち向かった「会津魂」が、少しだけ理解できたような気がします。

一四五年前の慶応四年十月八日、十六、十七歳で構成された士中二番隊の白虎隊は圧倒的な官軍の攻撃を受け、戸の口洞門を潜って飯盛山まで退却し、炎上する城下を前に玉砕か帰城か、皆で激論を戦わしたそうです。

敵陣突入して鶴ヶ城に戻り、最後まで戦う事を叫ぶ者も多し中での結論は、万一敵に捕らえられ屈辱を受けるような事があれば、主君や祖先に申し訳なく、この場合は潔く自刃して武士の本分を明らかにすべき」でした。

そこで全員同意した白虎隊員は一同列座し鶴ヶ城に決別の意を表した後、十九人自刃しましたが、鶴ヶ城の開城はそれから一ヶ月待たねばなりません。

今も飯盛山から南に目を転ずると、こもり茂った森の中に赤瓦の鶴ヶ城天守閣が僅かに遠望でき、一世紀半前の十六歳前後の少年達はどんな気持ちでこの景色を眺めたのかと考えると、正に胸が詰まる思いでした。

多分その思いは先の大戦で祖国防衛の為、沖繩方面の空や海、そして陸に散華した若人達に、連綿と幾重にも重なり合うような気が致します。

ところで前日の二十日、栃木県那須高原にある「戦争博物館」に行つて、誠に貴重な日清、日露、大東亜戦争遺品の数々を見学させて頂きました。

同博物館は栗林館長が私財を投じて昭和六十二年、二万㎡余の敷地に設立したもので収蔵品は約一万五千点にも及び、入口には日露戦争の旅順攻撃で名を馳せた二十八糎攻城砲が鎮座し、私を出迎えて頂き感激したところです。

栗林館長は数年前、文科省の後援で中国人監督が製作し当時物議を醸した映画「靖国」や「伊南京」に、ご本人の意志とは無関係に乃木大将の軍装で特別出演しておられ、私もスクリーンでは拝見致しましたが本物は初めてなので、恐る恐る名刺交換だけをさせて頂きました。(笑)

眼光鋭く 当館を何で知ったか? 何処から来たのか? もう帰るのか? など矢継ぎ早の質問にたじろぎながらも何とか回答し、館長の息災と同館の彌栄を祈念して早々に退出した次第です。(冷汗)

皆様も北関東出張の機会等あれば、当館の見学を是非にお勧め致します。尚、今月十五日は六十八回目の戦没者追悼式が護国神社及び神宮会館にて開催されますので、暑い中ではありますが何卒ご参列賜れば幸いです。

結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

平成 二十五年 八月 一日

